

事業完了報告書（京都市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月22日 ～ 令和6年3月4日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》Ⅱ Ⅱ. 広報・相談体制の充実に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>令和2年に行われた国勢調査の結果、京都府では1,422人の未就学者、12,003人の最終卒業学校が小学校の者という実態が明らかになった。そのうち、京都市には763人の未就学者、5,314人の最終卒業学校が小学校の者が存在している。</p> <p>また、現実には夜間中学で学ぶ在籍生徒数は、前身の京都市立郁文中学校二部学級の平成3年の97人をピークに減少し、現在18人とどまっている。これには、未就学者、最終学歴が小学校の者の多くが高齢となっていることも要因としてあげられる。しかし、入学生徒の夜間中学をどのようにして知ったかに対する回答の多くが、在校生や知人からの紹介、いわゆる「口コミ」であることから、京都市や洛友中学校からの発信が夜間中学を必要とする人に十分に届いていないということも要因と考えられる。これまで、夜間中学の広報にかかわる取組は以下のことを行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民しんぶんによる生徒募集のお知らせ ・京都市の区役所・支所、京都府内の図書館、ハローワーク等への募集案内の配架 ・ホームページを活用しての学校紹介 ・京都市立小・中・義務教育学校への募集案内の送付と形式卒業生徒への学校紹介依頼 ・校門前での生徒制作募集案内ポスターの掲示 ・在日韓国・朝鮮人居住地域の祭りでの学校紹介ブース開設 ・学校周辺地域への学校だより配布 ・小中学校教員を対象とした学校公開 ・文化祭への地域役員招待 ・他中学校生徒の学校見学受け入れ（人権学習への協力） ・教育機関や自治体等の依頼を受けた学校紹介の講演 ・近畿および全国夜間中学校との交流による、情報収集

これらの取組の結果として、保健福祉センターなどから紹介を受けて入学した形式卒業者等、これまでとは異なる形で夜間中学の存在を知り入学した生徒も増えてはきているが、依然として在校生徒、卒業生徒等からの「口コミ」により入学した生徒が多い。

これまでの取組が、必要とされる方にまだ十分伝わっていない結果であると考えられ、さらに効果的なものにするとともに、これまでの取組に加えて、「口コミ」に劣らない有効な方策を検討し、より多くの必要とする人に届く取組を実施していく必要がある。

具体的には以下の取組を新たに検討している。

- ・配架する資料に、新たに多言語による学校紹介ポスター、チラシ、リーフレット等を制作し、これまで募集案内の配架を行ってきた公共施設だけでなく、差別やそれに伴う貧困などにより、十分に教育を受けることができなかつた方がおられる地域のコミュニティセンター等にも備える。
- ・小中学校で行っている生徒募集の案内のほか、学校紹介ポスター、チラシ、リーフレットを新たに配布する。
- ・募集時期が近づいてきた際に、市民しんぶんに記載されている募集要項をさらにわかりやすく説明する案内を作成し、地域の回覧板等を利用し、直接家庭に届くように紹介する。
- ・地域や公共機関の掲示板に洛友中学校のポスター、募集案内等を掲示する。
- ・文科省によって制作されたユーチューブ映像とともに、学校紹介動画を作成し、視聴されるようにする。
- ・次年度より導入される、学校配信アプリの中に、洛友中学校の紹介と生徒募集の要項を掲載する。
- ・洛友中学校夜間部の取組（生徒作文、文化祭舞台発表等）を紹介する書籍（絵本）を制作し、公共図書館や学校図書館に配架する。
- ・随時学校見学と入学相談の機会を設け、そのための相談スペースを設ける。

<p>調査研究の成果</p>	<p>広報・相談体制の充実に関して、これまでの取組の充実及び新たな取組において特に力を入れたものは以下の通り。</p> <p>○ポスター、学校案内、募集要項、紹介チラシ、リーフレット等を活用した広報活動</p> <p>例年、公共機関等へポスター、チラシ、学校案内等の資料を配布し、夜間中学の存在が周知されるよう取り組んできたが、学校、福祉関係、地域等、配布範囲を拡大し、これまで以上に存在が周知されるように努めた。</p> <p>○学校紹介作品（絵本）制作を通じた広報活動の展開</p> <p>今年度、夜間中学の取組として、絵本作家の指導を受けて、「自分だけの絵本づくり」に取り組んだ。学校生活のこと、趣味のこと、家族のこと等、生徒が思い思いに絵本作りに取り組み、なかには創作物語に取り組んだ生徒もあり、学びを広げる取組になった。これらの作品を文化祭で展示するだけでなく、区役所の企画展で展示する等し、広く夜間中学が周知されるよう取り組んだ。さらに、絵本作家の協力のもと、洛友中学校オリジナルの絵本を作成し、全市の中学校への配布による夜間中学への周知だけでなく、人権学習の教材として利用されるよう取り組んだ。</p> <p>○入学希望者の相談機会の充実</p> <p>近年、形式卒業者の入学が増加している。その中には夜間中学の教育課程、学習内容などを十分に理解しないまま入学し、不適応を起こすという事例が起こっている。不適応を起こされた方には中学校での不登校経験だけでなく、引きこもりの状態が続き、社会とのつながりを築けなかったという方も含まれる。夜間中学の役割として、このような事例が起こることなく、次の歩みへつなげる役割を果たす必要がある。そのため今年度、入学に際しての広報活動及び学習指導の面でこれまでの取組の評価と変更を行った。広報活動においては、これまで入学希望者には学校見学・説明・学力検査（可否を判断するものではない）・面接を実施していたが、より丁寧なものになるよう、今年度はそこに2日間の授業体験を取り入れることで、授業内容について、事前に理解したう</p>
----------------	---

えて学校生活を始めることができるようにした。さらに、2日間の体験期間の中で学校生活に向けての不安等が解消するよう、随時、相談等の機会を確保した。

また、学習指導の充実が、様々な目的をもつ入学希望者に応えることにもつながるため、学習内容の整理と充実を図った。

○様々な場面を利用した広報活動の展開

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことを受け、今年度は学校公開の機会を増やすとともに広くその参加を呼びかけた。

学校公開では、授業参観を基本として行っているが、夜間中学の学校行事や平素の学習等の取組を紹介するパネル等を作成し、展示した。特に小中学校教員の参観を広く呼びかけた。これは不登校を経験し転入学をした昼間部の学齢生徒との交流の様子を紹介することで、現在在籍している不登校児童生徒や、かつて不登校を経験して卒業した生徒に、学び直しの場の選択肢として紹介してもらうことをねらったものでもある。

また、地域の行事等にもパネル等を展示し、広く夜間中学を紹介する取組を活発に展開した。

○他夜間中学への視察および研究大会への参加

今年度、近畿の夜間中学への視察を行い、それぞれの教育課程や教育内容等について学ぶとともに、夜間中学の取組発信のあり方等の情報を得ることもできた。

また、全国夜間中学校研究大会に参加し、全体会での夜間中学を取り巻く現状と行政施策について、理事会や分科会を通じての交流等により、国として、自治体としての広報活動の現状と今後の取組について等、様々な参考となる情報を得た。特に奈良県の発表の中で、夜間中学と自主夜間学校、行政との連携のあり方、地域への浸透の重要性等について知ることができた。この成果は今後の本校の広報活動、特に地域や行政機関との連携について活かせるものとなった。